

地域の会

創立20周年記録誌

“Chiiki-No-Kai”
Committee for Securing Transparency of
Kashiwazaki-Kariwa Nuclear Power Station

The 20th anniversary Record Magazine



柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会





目 的



柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。原子力発電所が事故無く稼働することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15(2003)年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。



もくじ



P 2.....	会長挨拶	◆ 活動の記録 ◆	
◆ 祝 辞 ◆		P 8.....	【第6期】
P 3.....	新潟県・柏崎市	P12.....	【第7期】
P 4.....	刈羽村・原子力規制庁	P16.....	【第8期】
P 5.....	資源エネルギー庁・内閣府	P20.....	【第9期】
P 6.....	東京電力HD・柏崎刈羽原子力発電所	P25.....	【第10期】
P 7.....	歴代会長	P30.....	第1期～第5期振り返りトピックス
		P31.....	第11期委員よりひとこと
		P37.....	会則
		P38.....	編集後記

挨拶

地域の会20周年にあたり

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会

会長 三宮 徳保



『柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会』が発足から20年の節目を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本会は平成14年8月に発覚した、東京電力柏崎刈羽原子力発電所で起こった自主点検作業記録の不正事件を発端として平成15年5月に発足しました。

会の目的は、立地地域住民の参画により、発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取組み、並びに国及び関係自治体の活動状況等を継続して確認・監視し、提言等を行う事により、発電所の安全性を確保する事です。

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く正常に稼働することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の想いです。この会では、原子力発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うと共に、必要な提言を行う事を目的として様々な活動を行ってまいりました。

令和5年10月時点で、月1回開催してきた定例会は244回となり、柏崎市と刈羽村の様々な団体から推薦された住民で構成される委員（1任期2年、最長10年）も延べ109人の方々からお勤め頂きました。現在は第11期目のメンバー19名で活動しています。

発足から20年の間には様々なことがありました。中越沖地震や東日本大震災の発生。地球温暖化による気象災害の増加やエネルギー資源に影響する紛争など、地球や日本を取り巻く状況は想像もしていなかった程、大きく変化しています。

この20年間、その時々々の社会情勢を鑑みながらテーマを選定し、各委員はこの地に既存する柏崎刈羽原子力発電所とどのように向き合っていくか、何が大切で何が必要なのかを真剣に議論してまいりました。その間、前進する事もあれば後退する事もありましたが、当時から振り返れば、確実に柏崎刈羽原子力発電所の安全性と透明性は向上していると思います。

私は3代目の会長になりますが、歴代の会長や副会長、委員の皆様の努力あって、他の原子力発電所立地地域には存在しない、様々な意見を持った住民が同じテーブルで冷静に議論するという、他に類を見ない会が活動を継続出来てきたのだと思います。

今後もこの会の議論や存在自体が、柏崎刈羽原子力発電所及び国のエネルギー政策に良い影響を与え、緊張を感じさせる存在であり続けること、日本が明るい豊かな社会を継続するための一助になればと思っています。

最後に、現在まで定例会や現地視察など様々な場面で本会を支えて頂きました原子力規制庁、資源エネルギー庁、新潟県、柏崎市、刈羽村、東京電力HDの皆様の多大なる御支援と御協力に感謝申し上げます。また、同様のお力添えを頂きました歴代委員の皆様、地域住民の皆様にも感謝申し上げます。

引き続き、本会への御支援、御協力と御理解を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 祝 辞 ◆

地域の会
20周年に寄せて

新潟県知事 花角 英世

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」が、発足20周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

「地域の会」は、様々な立場の住民の方々が一堂に会して議論を重ね、事業者や国、そして我々自治体の活動状況等を確認し、住民目線で提案を行うという、本県独自の活動です。

平成15年の発足から、毎月の定例会において柏崎刈羽原子力発電所に関する様々な議論を行うとともに、柏崎刈羽原子力発電所や原子力関連施設の視察研修等を行い、その取組を広報誌「視点」にとりまとめて広報するなど、精力的な活動を継続してこられた関係者の皆様のご努力に、改めて敬意を表します。

この10年間においては、福島第一原発事故を踏まえて新規制基準が施行され、柏崎刈羽原子力発電所6、7号機について、新規制基準適合性に係る審査が行われるとともに、安全対策工事が進められてきたところであり、県としても技術委員会などで確認してまいりました。

一方で、核物質防護に係る一連の事案により原子力規制委員会が事実上の運転禁止命令を出すなど、東京電力に原子炉等規制法に基づき原子炉の運転を適確に遂行するに足る技術的能力が本当にあるのか疑問を感じさせる状況となりました。

このような状況の中で「地域の会」の活動が、今後とも柏崎刈羽原子力発電所の安全確保と立地地域の安心感醸成に大きく寄与していくことを期待しております。

最後になりますが「地域の会」の益々のご発展を祈念いたします。

信頼 するようになり
たい・される
ようになりたい

柏崎市長 櫻井 雅浩

表題は、新野良子氏が「地域の会」初代会長になられる前のご発言です。

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」発足20周年、心からお喜び申し上げます。歴代委員の皆様が精力的な議論や活動に、改めて深甚なる敬意を表します。

今から27年前、平成9(1997)年、第1回全国原子力発電所立地議会サミットが開催されました。「推進団体の全原協があるのになぜ？」という声もある中、「議会は議論するところ。賛否を超えてというところに意味がある」と仰ったのは、協力要請に伺った青森県大間町の議長石戸秀雄氏でした。新野氏の言葉と共通するところがあるように思えます。

「地域の会」は住民自らが賛成、反対、中立、様々な立場から意見を交わすという日本では類を見ない、素晴らしい存在です。200回を超える定例会の実施。非常に誇らしく思います。皆さんの議論が柏崎、刈羽の安全、安心を導いています。今後はフランスのC L I (地域情報委員会)のように「原子力安全及び透明性に関する法律」で義務付けることも国に対して提案していきたいと思えます。その際、貴会はモデルとなります。

今、原子力発電所やエネルギーを取り巻く状況は大変厳しく、複雑で、困難な状況にあります。このような中で、皆様方の活動はこれからもさらに重要な役割を果たしていくものと期待しております。「地域の会」の伝統、革新の継続、ますますのご発展を信じ、お祝いの言葉といたします。

20年を賞賛し さらなる飛躍に 期待して



刈羽村長 品田 宏夫

2002年7月、MOX燃料関連の視察にベルギー・フランスへ赴きました。阿吽の呼吸か？故西川正純市長（1992～2004）も8月に同様の視察に行かれました。ベルゴニュークレール社（白）とメロックス社（仏）を中心に強行軍視察でした。

視察で私は二つの大きな知見を得ました。MOX燃料の品質保証を担う組織がベルギーでは株式会社だったこと。そしてフランスにおける地方委員会です。

フランスでは原子力発電所や化学工場などの立地に際し、当該地域に監視や助言を主たる任務とした民間組織を作ることがルール化されていました。任命者はその地域（県）の議会議長ということでした。

強く印象に残ったと西川市長に話すと「実は私もそう思っていた。」とのこと。即座にやろうということになり、地域の会の胎動が始まりました。

さて、品質保証を専門にした株式会社が我が国にあるでしょうか。

ギリシャの大航海時代に生み出された保険という発想。イギリスのロイズ保険という仕組み。長く経験を積み上げてきた国々では、民間企業が品質保証することに違和感がないのでしょうか。米国でもコンクリート打設に関して許可権限を持つ株式会社があるという番組を見たことがあります。

日本では権限に関することは「お上」や公益組織に譲るといふ風潮があると思います。どちらが優れたやり方かはともかく、民間を信頼する、任せるといふ発想は見習うべきところがあります。

地域の会は純粋に民間組織、自由な組織です。

エネルギーをテーマに活発な議論を期待しています。

20年という 節目にあたって



原子力規制庁柏崎刈羽原子力
規制事務所

所長 渡邊 健一

「地域の会」の発足から20周年にあたりご挨拶を申し上げます。

原子力規制委員会は、東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓に学び、二度とこのような事故を起こさないために、そして、原子力規制組織に対する国内外の信頼回復を図るべく設置され、情報開示の徹底と国内外の多様な意見に耳を傾けて孤立と独善を戒めることなどを組織理念としています。

柏崎刈羽原子力規制事務所では、「地域の会」を通じて、審査、検査など原子力規制委員会が行う規制業務について、住民の皆さんに分かりやすく、丁寧に説明すること、疑問、懸念、不安に対し、真摯に対応することで、組織理念の実践に努めています。

「地域の会」は、地元住民の委員の方々、事業者、自治体、国からなるオブザーバーが一堂に会する国内で唯一の組織です。この20年間、毎月の会合で様々な立場の地元住民の方が、色々な角度から活発に質問、意見を出し、対話することで、柏崎刈羽原子力発電所の透明性向上に多大な貢献をしているほか、原子力規制委員会が地元住民から原子力規制・防災に係る提案などを直接伺うことができる貴重な機会だと考えています。

今後も、「地域の会」において原子力規制の内容や原子力規制委員会の取組等を説明し、透明で開かれた組織として説明責任を果たしていくとともに、委員の皆様からの忌憚のない意見を頂きたくお願い致します。

最後に「地域の会」の今後の益々のご活躍とご発展をご期待申し上げます。

地域の会の重要性

資源エネルギー庁 資源エネルギー政策統括調整官

山田 仁



「地域の会」が発足から20周年を迎えられましたことを、心からお祝いをいたします。

「地域の会」の活動が20年を迎えられたのも、歴代の会長や委員の皆様、事務局のほか、柏崎刈羽地域の関係各位の御尽力のたまものであり、深く敬意を表します。

「地域の会」は、柏崎刈羽地域の様々な立場の住民が一堂に会し、原子力発電に対する多様な考えや立場を越えて、20年にわたって活動を継続してこられました。地域住民の目線に立った柏崎刈羽原子力発電所の安全確保に関する取組は、地域住民の皆様のお心にもつながる重要な役割を果たしていると考えています。

さて、ロシアによるウクライナ侵略等により、世界のエネルギー情勢は一変し、足元のエネルギー価格高騰や、中長期的なエネルギー安定供給の確保が重要な課題となりました。こうした中、令和5年2月に閣議決定した「GX実現に向けた基本方針」では、原子力など脱炭素電源への転換、地域の実情を踏まえた自治体等の支援等による立地地域との共生、国民各層とのコミュニケーションの深化・充実等を推進していくとの方針を明確にしました。

資源エネルギー庁としては、この方針も踏まえ、今後も「地域の会」において、エネルギー・原子力政策について丁寧な説明を行うとともに、地域に寄り添いながら、立地地域の持続的な発展、立地地域との共生に向け、取り組んでまいります。

最後になりますが、「地域の会」の今後のますますの御活躍と御発展を御期待申し上げます。

地域の会 20周年に寄せて

内閣府政策統括官（原子力防災担当）

松下 整



「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」が、平成15年の発足から20周年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

「地域の会」におかれましては、発足から20年の間、様々な立場の地元住民の方々が集まり、国・関係自治体・原子力事業者の取組等を確認しながら、対話・議論を継続してきたことにより、参加者間で相互理解を深めてこられました。歴代の委員の方々をはじめとする関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

また、この「地域の会」の節目の年である令和5年10月には、柏崎刈羽地域において、東京電力福島第一原子力発電所の事故以来はじめて、国・関係自治体・原子力事業者が一体となり連携した原子力総合防災訓練が実施されました。訓練の実施に際してご協力いただいた関係者の皆様にあらためて深く感謝申し上げますとともに、今回の訓練で得られた教訓や課題等を踏まえ、今後の原子力災害対応の更なる実効性向上に繋げていきたいと考えております。

内閣府といたしましては、引き続き、柏崎刈羽地域における原子力防災体制の継続的な充実・強化を図るため、この「地域の会」におきまして、政府としての取組や考え方を地元住民の皆様に対して丁寧に説明するとともに、地元住民の皆様のご意見を真摯に受け止めてまいりますので、引き続き忌憚のないご意見をいただければと存じます。

最後に、「地域の会」の一層のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

地域の会 20周年に寄せて

東京電力ホールディングス(株)

代表執行役社長 小早川智明



このたび、「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」が20周年を迎えられ、240回を超える定例会を通じ、発電所の透明性・安全性に資する議論を継続いただいていることに、心から敬意を表します。

本会が、平成14年に公表したデータ改ざん、隠蔽といった不祥事を契機に発足したことは、当社として決して忘れてはならないことです。今日に至るまで、本会の歴代委員の皆さまから貴重なご意見を賜り、安全意識の向上をはじめ、様々な改善に取り組んでまいりました。一方で、地域の皆さまにご不安を与える事案を発生させてしまうこともあり、未だ皆さまのお気持ちに思いを馳せる「想像力」が不足しているものと認識しております。

発電所立地地域の住民の代表である委員の皆さまから、直接、様々なご意見をいただくことができる本会は、まさに当社にとって「想像力」を培う貴重な機会であります。今後も、皆さまのご議論に真摯に耳を傾け、いただいたご意見等を改善に繋げることで、地域に寄り添った発電所運営を目指してまいります。

同時に、地域の皆さまの声を踏まえて、地域と一体となった取り組みを進めることも重要と認識しております。当社はこれまで、新潟本社の設立や原子力部門の本社機能の一部移転などを実施し、地域の皆さまとともに、様々な取り組みを進めてまいりました。引き続き、皆さまの声を真摯に受け止め、誠心誠意お応えしていくことで、地域に根差した企業となれるよう努めてまいります。

地域の会 20周年に寄せて

東京電力ホールディングス(株)
常務執行役
柏崎刈羽原子力発電所

所長 稲垣 武之



このたび、20周年を迎えられた「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」の歴代委員の皆さまをはじめ、会の運営に携われた皆さまに対し、心から敬意を表します。

会の設立からこの間、発電所に関する不適切な事案もあり、その度、地域の皆さまにはご心配、ご不安をおかけしてまいりました。

現在、私が現場の長として先頭に立ち、現場実態を把握しながら、様々な改善活動を協力企業の皆さまとともに進めておりますが、これで十分だと思ふことなく、終わりなき安全の追求に努めてまいります。

トラブルやミスが発生した場合でも、しっかりと原因分析を行い、それを踏まえた再発防止策を講じることで、大きな問題に発展させないこと、同様の事案を繰り返さないことが必要です。また、日頃から、少しでも異なる状況に気づいたら立ち止まって考え直すことも重要です。引き続き、自律的かつ継続的に改善する仕組みをしっかりと定着させ、業務品質を高めてまいります。

委員の皆さまからいただくご意見・ご提言は、発電所が立地しているこの地域にお住まいの方々を代表した声であり、その声にしっかりとお応えしていくことで、発電所の安全性を高め、地域の皆さまからの信頼を積み上げてまいりたいと考えております。

「地域の会」が今後もより活発に運営されることを祈念し、委員の皆さまからの忌憚のないご意見・ご指導をいただきながら、引き続き、発電所運営の改善に努めてまいります。

地域の会 20周年に寄せて

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会

初代会長 新野 良子



よくぞ20年も続いたものです。ここにこれまで関わられた歴代の委員、オブザーバー、メディア、事務局など多くの関係者の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

思い起こせば設立準備会での激論の末の発会、数回で消滅かと危ぶまれもし、委員の提案により月一回と定めた定例会や様々な活動に真剣に取り組んで参りました。当初感情が先立つ場となったものの、手探りの「他に類のない会」を目指しました。情報の透明性と公平性が確保された場づくりに苦心をし、相互の信頼回復を目標に活動の継続、記録、公開に努めました。

しかし、天災や事象は続き課題が尽きることなく、住民の立場から一早く複合災害を意識した防災のあり方や情報伝達の重要性を議論し毎年提言もし続けました。いつしか委員同士は立場の違いを認め合い互いの想いを尊重し合える場を築き始めていました。

ところが2011年未曾有の東日本大震災が起きたのです。その時、私達はそれまで聞かされてきた原子力防災とは異なる現実に戸惑い落胆しました。しかし、会の存続意義を真剣に話し合い、福島の人々に思いを馳せながら、総理大臣以下関係各所に意見書を提出したのです。

設立から20年、住民が願う幾つかの課題は変化し始めたものの、思考の前提にあるべき根拠情報やプロセスなどの情報共有は未だ十分とは言えません。今後も相互の信頼と納得を得るため、顔をあわせ初心を忘れず、住民の声を決定の場に届ける活動が継続されますよう願っています。

地域の会 20周年に寄せて

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会

前会長 桑原 保芳



平成23年5月1日地域の会に松浜地区町内会から推薦され委員に就任。令和3年4月30日に10年の任期を満了し退任しました。

就任当時は原子力発電所への委員の賛否の温度差が大きく、毎回の激論で存続に不安を感じる委員もいたと聞きました。

20周年を迎えられたのも新潟県、柏崎市、刈羽村と関係者の理解があつての事と感じています。

何よりも事務局のご苦勞は就任から10年間感じていました。

平成27年6月3日に会長に就任。当時は定例会の閉会時間が午後10時を過ぎた日も何回かあり、事務局からは時間の厳守を強く要請されていました。

地域の会の委員は会社役員から主婦まで多様な方が参加しており、それぞれ忙しい時間帯の会議時間の設定であり会長就任からは閉会時間は厳守しました。

次に定例会議の運営も声の高い委員が何回も発言して終わらないように、会議の時間を調整して当日、発言のなかった委員を指名して意見を聞く時間を設けました。

積極的に発言されない委員も指名すると角度の違う新鮮な意見も数多く聞くことができました。

これは現会長にも引き継がれています。

地域の会の目的は発電所そのものの賛否はひとまず置いて、原子力発電所の安全について状況を確認し、住民の視線から監視活動と必要な提言を行うとされています。

発電所の立地地域住民が参加している地域の会の活動が新潟県民に、より多く伝わればと感じています。

これから先も地域の会が原子力発電所の安全性の議論を継続される事を願っています。

◆ 活動の記録 ◆

【第6期】平成25(2013)年～平成27(2015)年

平成25(2013)年 5月 8日 第6期の始動。前期から5名減の委員20名でのスタート
 平成25(2013)年 9月29日～30日 福島第一・第二原子力発電所の視察
 平成26(2014)年 2月 発足から10年の活動を記録した記録誌「地域の会10年の記録」作成
 平成26(2014)年10月 5日～ 6日 女川原子力発電所の視察
 平成27(2015)年 4月 8日 第6期の総括として、原子力発電所の安全性を一層高めるための意見書を提出

経 緯

年 月 日	会議・視察名	内 容
平成25(2013)年		
5月8日	第119回定例会	委員委嘱状交付、委員自己紹介、役員（会長・副会長）選出 オブザーバー挨拶
5月26日	柏崎刈羽原子力発電所視察	6号機（水密扉、非常用バッテリー、非常用発電機等）、構内（防潮堤、防潮壁、電源車・消防車等）、免震重要棟（止水シャッター、非常用発電機、緊急時対策室等）を視察
6月5日	第120回定例会	新規制基準案の概要（規制庁）、新規制基準案に対する対応（新潟県、柏崎市）
6月17日	第9回臨時会	・「地域の会」の設立経緯および経過のあらまし ・意見交換（会則の読み合わせ、これからの会の運営や議題 など）
6月26日	技術コミュニケーションに関する教育内容会（長岡技術科学大学）	原子力システム安全工学の講義「技術コミュニケーション論」の実践的活動に参加（主催 長岡技術科学大学）
7月3日	第121回定例会	新規制基準について質疑応答
8月7日	第122回定例会	新規制基準の基本的考え方（規制庁）、新規制基準の適合申請内容及びベント設備について（東京電力）
8月20日	TiPEEZ（防災システム）デモンストレーション参加	地震・津波に対する原子力施設の周辺地域を考慮した防災システム（TiPEEZ）デモンストレーションに参加（主催 新潟工科大学原子力耐震・構造研究センター）
9月4日	第123回定例会	福島第一原子力発電所の状況、地上タンク及び地下水の汚染水漏れ、福島第一原子力発電所視察の概要（東京電力）、委員による意見交換
9月29日-30日	福島第一・第二原子力発電所視察	住民懇談会（いわき市29日）、福島第一・第二原子力発電所視察（30日）
10月2日	第124回定例会	福島視察の報告、意見・感想・質疑など
10月23日	TiPEEZ（防災システム）説明会	地震・津波に対する原子力施設の周辺地域を考慮した防災システム（TiPEEZ）説明会に参加（主催 新潟工科大学原子力耐震・構造研究センター）
11月6日	第125回定例会および10周年事業「公開勉強会」	10周年事業「公開勉強会」 ・基調講演「原子力に向かい合う対話の形をさがして」～地域の会の今後を見すえて～ 講師：東北大学名誉教授 北村正晴氏 ・パネルディスカッション
11月12日	10年記録誌編集委員会（第1回）	構成、仕様検討
11月20日	10年記録誌編集委員会（第2回）	台割、レイアウト案検討
12月4日	第126回定例会	ベントについての概要説明（東京電力）、原子力防災訓練のまとめ報告（柏崎市、刈羽村、新潟県）
12月17日	10年記録誌編集委員会（第3回）	台割、レイアウト案検討
平成26(2014)年		
1月8日	第127回定例会	エネルギー基本計画骨子（案）について（資源エネルギー庁）、エネルギー基本計画案、防災、前回の原子力防災訓練等について委員意見表明
1月8日	10年記録誌編集委員会（第4回）	台割、レイアウト案検討、送付先検討
1月28日	メディアとの懇談会	委員とメディア関係者による懇談会を開催

年月日	会議・視察名	内容
2月5日	第128回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うことや伝えたいことなど) オブザーバー所感表明(委員所感表明を踏まえての意見や感想)
3月5日	第129回定例会	原子力防災について(規制庁、東京電力、新潟県、柏崎市、刈羽村)
3月29日	意見交換会	今後10年に向けた課題、今年度取り組みたいテーマ等について意見交換
4月9日	第130回定例会	前回定例会議事「原子力防災について」の補足、質問に対する回答(規制庁、新潟県、柏崎市、刈羽村)
5月14日	第131回定例会	エネルギー基本計画の概要について(資源エネルギー庁)、前回定例会での質問に対する回答及び防災計画(おもに情報伝達)について(規制庁)、防災計画における情報伝達の流れ(新潟県、柏崎市、刈羽村)
6月4日	第132回定例会	前回定例会議事「エネルギー基本計画」に対する質疑応答、前回定例会議事「防災計画(情報伝達)」に対する質疑応答
6月4日	県へ申し入れ書を提出	安定ヨウ素剤未調達事案に対して申し入れ 提出先:新潟県知事
6月21日	柏崎刈羽原子力発電所視察	6号機フィルタベント及び構内地質調査地点、防潮堤、貯水池、緊急安全対策車両、防潮壁等を視察
7月2日	第133回定例会	防災計画、避難計画について(新潟県、柏崎市)、前々回定例会議事「防災計画(情報伝達)」に対する質疑応答
7月9日	技術コミュニケーションに関する教育内容会(長岡技術科学大学)	原子力システム安全工学の講義「技術コミュニケーション論」の実践的活動に参加(主催 長岡技術科学大学)
8月6日	第134回定例会	防災計画(緊急時の避難)について意見交換、質疑応答
9月3日	第135回定例会	防災情報のあり方について、東京電力、規制庁、新潟県の対応
10月1日	第136回定例会	女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組み(東北電力)、原子力防災訓練の概要について(新潟県)
10月5日-6日	東北電力(株)女川原子力発電所視察	女川情報交流館及び周辺の視察(5日)、女川原子力発電所視察(6日)
11月5日	第137回定例会	女川原子力発電所の視察研修報告(委員)、委員所感表明
12月3日	第138回定例会	事後の対応について、原子力防災訓練について報告

平成27(2015)年

1月14日	第139回定例会	SPEEDIについて(規制庁)、2月情報共有会議に向けた各委員のテーマ発表
2月4日	第140回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うことや伝えたいことなど) オブザーバー所感表明(委員所感表明を踏まえての意見や感想)
3月4日	第141回定例会	高レベル放射性廃棄物の最終処分について(資源エネルギー庁)、平常時の知るべきこと、知りたいこと
3月12日	メディアとの懇談会	委員とメディア関係者による懇談会を開催
4月8日	第142回定例会	2年間の任期を終えて所感表明
4月8日	意見書の提出	原子力発電所の安全性を一層高めるための意見書を提出 提出先:経済産業大臣、文部科学大臣、内閣府特命担当大臣(原子力防災担当)、原子力規制委員会委員長、原子力規制庁長官、資源エネルギー庁長官、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力株式会社

情報誌「視点」第60号～71号を発行

発電所を巡る動き

平成25(2013)年 6月20日	柏崎刈羽原子力発電所、海拔15mの防潮堤が完成
平成25(2013)年 7月 2日	東京電力、6・7号機について新規規制基準施行後、速やかに適合審査を申請する方針を決定
平成25(2013)年 8月 9日	新潟県、県内全30市町村にモニタリングポストの設置が完了
平成25(2013)年11月 4日	東京電力、柏崎刈羽地域防災支援プロジェクトチームを本店に設置
平成25(2013)年12月18日	東京電力、福島第一原子力発電所5・6号機廃炉を正式決定
平成26(2014)年 3月 1日	JNES(原子力安全基盤機構)が解散し、原子力規制庁に統合
平成26(2014)年 4月 1日	東京電力、「福島第一廃炉推進カンパニー」を設置
平成27(2015)年 3月20日	内閣府、原発が立地する13地域に地域原子力防災協議会を設置
平成27(2015)年 4月 1日	東京電力、「新潟本社」を設立

第6期活動記録



意見交換会



柏崎刈羽原子力発電所視察



福島県視察研修



福島県視察研修



第125回定例会「公開勉強会」



女川原子力発電所視察



女川原子力発電所視察



第142回定例会

第6期 提言・意見・要望

経済産業大臣	宮沢 洋一 様
文部科学大臣	下村 博文 様
内閣府特命担当大臣（原子力防災担当）	望月 義夫 様
原子力規制委員会委員長	田中 俊一 様
原子力規制庁長官	池田 克彦 様
資源エネルギー庁長官	上田 隆之 様
新潟県知事	泉田 裕彦 様
柏崎市長	会田 洋 様
刈羽村長	品田 宏夫 様
東京電力株式会社	廣瀬 直己 様

1 国に対して

これまでの原子力政策は、国民への説明において結論や部分的なものが多く、納得につながりませんでした。これからは信頼を高めるためにもビジョンや全体像を示しながら、経過を含めた丁寧な説明が必要です。

原子力政策全般について、責任の所在や立地自治体の役割と権限を明確にし、関係機関と連携しながら最終的には国が責任を持つことを要望します。

2 規制委員会（規制庁）に対して

新規制基準が策定され、適合性審査が進められています。福島事故後、考え方を大きく転換されましたが、委員長は、「規制基準の適合性を審査するのみで安全性を保障するものではない」と繰り返し述べられ、また、首相は「世界一の安全基準」と発言されています。

これでは、国民や住民には理解されず信頼も深まりません。規制のあり方や考え方を十分に説明していただくことを要望します。

3 自治体に対して

新潟県・柏崎市・刈羽村は、住民に一番近い存在であり住民の安全を守る砦であると考えます。原子力防災も一般災害の対応と同様に自治体の役割は大きなものです。

自治体は、住民が原子力防災を理解するための説明責任を果たしていただくことを要望します。

4 東京電力（株）に対して

東京電力は、福島事故の原因者であり、重大な責任があります。

これまで情報のあり方について長い間、互いに議論を重ねてきました。福島の事故後も住民の信頼を損なうことが相次いでいることは極めて残念であり、体質改善を強く要望します。

安定ヨウ素剤未調達事案に対する申し入れ

新潟県知事 泉田 裕彦 様

本事案は、原子力発電所立地点の住民及び県民の安全をないがしろにするものであり、立地地域住民に対する新潟県の安全確保の姿勢を疑わせ、新潟県に対する信頼を大きく損なう重大な事案であり、強い憤りを覚えます。

については、二度とこのようなことを繰り返さぬように再発防止策の徹底を強く申し入れます。

第6期 地域の会委員名簿 (任期 平成25(2013)年5月1日～平成27(2015)年4月30日) 五十音順 敬称略

アサガ	チ オ	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク	タケウチ	カズマサ	一般社団法人 柏崎青年会議所
浅賀	千穂		竹内	一公	
アラノ	ヨシコ	かしわざき男女共同参画推進市民会議	タケモト	カズキキ	柏崎刈羽原発反対地元三団体
新野	良子		武本	和幸	
イシザカ	ヤスオ	柏崎商工会議所	タケモト	マサユキ	連合新潟・柏崎地域協議会
石坂	泰男		武本	昌之	
カノウ	マサユキ	刈羽村商工会	チハラ	ケンジ	荒浜21フォーラム
加納	正幸	任期：平成 26(2014)年 4月 15 日から	千原	健二	柏崎市
		柏崎エネルギーフォーラム	トクナガ	ヒサユキ	
カワグチ	ヒロシ		徳永	久行	原発問題を考える刈羽西山住民の会
川口	寛		内藤	利成	
クワバラ	ヤスヨシ	松浜地区町内会	ナイトウ	セツコ	くらしをみつめる・・・柏桃の輪
桑原	保芳		ナカハラ	節子	協同組合ニューエネルギーリサーチ
サトウ	マサユキ	高浜地区町内会	中原	マエダ	プルサーマルを考える医療者の会
佐藤	正幸	刈羽エネルギー懇談会	前田	弘美	刈羽村商工会
サンクウ	マサクニ		ヨシノ	シンヤ	
三宮	政邦	原発反対刈羽村を守る会	吉野	信哉	
タカクワ	チ エ	柏崎市	ワタナベ	直人	任期：平成 26(2014)年 4月 14 日まで
高桑	千恵		渡辺		
タカハシ	タカシ				
高橋	武				
タカハシ	マサカズ	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター			
高橋	優一				

第7期 平成27(2015)年～平成29(2017)年

- 平成27(2015)年 5月13日 第7期の始動。委員数20名
第7期最初の定例会で会長、副会長の選出に至らなかった。次の第144回定例会で会長、副会長を選出
- 平成27(2015)年 7月12日 柏崎刈羽原子力発電所を視察
- 平成28(2016)年10月 6日 柏崎刈羽原子力発電所を視察
- 平成29(2017)年 2月 1日 地域の会情報共有会議に新潟県知事、東京電力HD廣瀬社長が出席。会の設立以来初
- 平成29(2017)年 4月12日 第7期の総括として、原子力発電所の安全性を一層高めるための意見書を提出

経緯

年月日	会議・視察名	内容
平成27(2015)年		
5月13日	第143回定例会	委員依頼状授与、委員自己紹介、代表理事挨拶、会則と運営について（会長・副会長の選出含む）
6月3日	第144回定例会	原子力防災計画について（柏崎市）、会長・副会長の選出について
7月1日	地域の会委員と長岡技科大生による対話集会（長岡技術科学大学）	原子力システム安全工学の講義「技術コミュニケーション論」の実践的活動に参加（主催 長岡技術科学大学）
7月1日	第145回定例会	「地域の会」の今後の運営体制について
7月12日	柏崎刈羽原子力発電所視察	防潮堤、貯水池、6号機構内、緊急安全対策車両、防潮壁等を視察
8月5日	第146回定例会	新潟県の防災計画について（新潟県）
9月2日	第147回定例会	避難計画について（新潟県、柏崎市、刈羽村からの説明）
10月7日	第148回定例会	フィルターベントについて（東京電力）
11月4日	第149回定例会	勉強会「原子力防災計画におけるリスクコミュニケーション」 講師：長岡技術科学大学 大塚雄准教授
12月2日	第150回定例会	新潟県技術委員会について（新潟県）
平成28(2016)年		
1月13日	第151回定例会	放射性物質拡散シミュレーション結果について（新潟県、東京電力）
2月3日	第152回定例会（情報共有会議）	委員所感表明（今一番思うことや伝えたいことなど） オブザーバー所感表明（委員所感表明を踏まえての意見や感想）
3月2日	第153回定例会	I A E Aによる柏崎刈羽原発の結果報告及び津波想定引き上げについて（東京電力）
4月13日	第154回定例会	モニタリングポストについて（新潟県）
5月11日	第155回定例会	フリートーク（1年経過した感想、会のあり方についてなど）
6月1日	第156回定例会	熊本地震を受けて（規制庁、東京電力HD、新潟県、柏崎市、刈羽村）
7月6日	地域の会委員と長岡技科大生による対話集会（長岡技術科学大学）	原子力システム安全工学の講義「技術コミュニケーション論」の実践的活動に参加（主催 長岡技術科学大学）
7月6日	第157回定例会	原子力防災に関する意見交換 （柏崎市、刈羽村の防災ガイドブックより）
8月3日	第158回定例会	メルトダウンに関する第三者検証委員会の結果報告について（東京電力HD）
9月7日	第159回定例会	柏崎刈羽原子力発電所の規制基準適合審査申請に係る条件付き承認について（新潟県）
10月5日	第160回定例会	防災・避難計画の課題と動きについて（新潟県、柏崎市、刈羽村）
10月6日	柏崎刈羽原子力発電所視察	サイトシミュレーター及び緊急時対策所の原子力防災訓練、免震重要棟、6号機構内、自衛消防隊消火訓練等を視察
11月2日	第161回定例会	地域の会の運営について
12月7日	第162回定例会	勉強会「再生可能エネルギーの種類と課題について」 講師：資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所長

年月日	会議・視察名	内容
平成29(2017)年		
1月11日	第163回定例会	原子力行政における新潟県の役割について（新潟県）
2月1日	第164回定例会(情報共有会議)	委員所感表明（今一番思うこと、伝えたいこと） オブザーバー代表者挨拶・所感（委員所感を受けて） 意見交換
3月1日	第165回定例会	柏崎刈羽原子力発電所の運転員教育について（東京電力HD）
4月12日	第166回定例会	2年間の委員任期を終えて（委員所感）、フリートーク
4月12日	意見書の提出	原子力発電所の安全性を一層高めるための意見書を提出 提出先：経済産業大臣、内閣府特命担当大臣（原子力防災）、原子力規制委員会委員長、原子力規制庁長官、資源エネルギー庁長官、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力ホールディングス株式会社代表執行役社長

情報誌「視点」第72号～83号を発行

発電所を巡る動き

平成28(2016)年 2月24日	東京電力、福島第一原子力発電所事故で、当時のマニュアルに照らせば事故3日後には炉心溶融の判断ができたことが判明
平成28(2016)年 4月 1日	東京電力、ホールディングカンパニー制に移行
平成28(2016)年 8月25日	東京電力HD、新潟県知事と面会し、炉心溶融の公表が遅れた問題について謝罪
平成29(2017)年 2月 1日	新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長、三者会談。2010年4月21日以来7年ぶり
平成29(2017)年 2月14日	新潟県、福島第一原子力発電所事故に関する新たな検証体制(3つの検証、検証総括委員会の設置)を発表

第7期活動記録



柏崎刈羽原子力発電所視察



柏崎刈羽原子力発電所視察



柏崎刈羽原子力発電所視察



アジア原子力フォーラム



第148回定例会



長岡技術科学大学対話集会



柏崎刈羽原子力発電所、訓練等視察



柏崎刈羽原子力発電所、訓練等視察

第7期 提言・意見・要望

経済産業大臣	世耕 弘成 様
内閣府特命担当大臣（原子力防災）	山本 公一 様
原子力規制委員会委員長	田中 俊一 様
原子力規制庁長官	安井 正也 様
資源エネルギー庁長官	日下部 聡 様
新潟県知事	米山 隆一 様
柏崎市長	櫻井 雅浩 様
刈羽村長	品田 宏夫 様
東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長	廣瀬 直己 様

1 国に対して

- ①福島第一原子力発電所の事故を教訓として、原子力発電所の過酷事故が二度と繰り返されないよう、立地自治体の役割と権限については最終的には国が責任を持つことについて明確に示してください。
- ②今後、日常生活にも大きく関わってくる高レベル廃棄物の処理及び使用済み核燃料の取り扱いについて、地域住民に明確に説明してください。

2 新潟県・柏崎市・刈羽村に対して

- ①原子力防災計画の策定や避難時における現場指揮や指示系統などについて、新潟県・柏崎市・刈羽村の連携と役割分担を明確に示してください。
- ②知事、市長、村長が定期的に三者会談を行い、実効性のある原子力防災計画を策定してください。

3 東京電力ホールディングス株式会社に対して

福島第一原子力発電所の過酷事故後もメルトダウンや免震重要棟の問題など、社会や立地地域に対する信頼を損ねる事態が続き、当会の目的である透明性の確保という観点から大きくかけ離れる結果となり、原子力発電所の立地地域のみならず新潟県全体にとって非常に残念で遺憾な出来事であります。

それぞれの原因は異なっても、結果として、地域住民の信頼を損なう事態が繰り返されてきたという事実を真摯に受け止め、意識改革、組織改革を強く要請します。

第7期 地域の会委員名簿 (任期 平成27(2015)年5月1日～平成29(2017)年4月30日) 五十音順 敬称略

池野 里美	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク	竹内 一公	一般社団法人 柏崎青年会議所
石川真理子	プルサーマルを考える医療者の会	武本 昌之	連合新潟・柏崎地域協議会
石坂 泰男	柏崎商工会議所	千原 健二	荒浜21フォーラム
石田 栄久	南部コミュニティ協議会	内藤 利成	原発問題を考える刈羽西山住民の会
桑原 保芳	松浜地区町内会	中川 正寛	高浜地区町内会
三宮 徳保	刈羽エネルギー懇談会	中村 明臣	協同組合ニューエネルギーリサーチ
須田 聖子	くらしをみつめる・・・柏桃の輪		任期：平成28(2016)年7月14日まで
須田 年美	かしわぎき男女共同参画推進市民会議	中村 伸哉	刈羽村商工会
高桑 千恵	原発反対刈羽村を守る会	町田 善彦	協同組合ニューエネルギーリサーチ
高橋 新一	柏崎刈羽原発反対地元三団体		任期：平成28(2016)年7月15日から
高橋 武	柏崎建設業協同組合	三井田達毅	柏崎エネルギーフォーラム
高橋 優一	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター		

第8期 平成29(2017)年～平成31(2019)年

平成29(2017)年 5月10日	第8期の始動。前期から1名減の委員19名でのスタート
平成29(2017)年 7月22日	柏崎刈羽原子力発電所を視察
平成30(2018)年 9月26日～27日	福井県視察研修を実施。関西電力(株)大飯発電所の視察及びおおい町及びおおい町議会と意見交換
平成30(2018)年11月21日	情報共有会議をこれまでの2月開催から11月開催に変更
平成31(2019)年 4月10日	第8期の総括として、原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出

経 緯

年 月 日	会議・視察名	内 容
平成29(2017)年		
5月10日	第167回定例会	委員依頼状授与、自己紹介、会長・副会長の選出、フリートーク(委員のみ)
6月7日	第168回定例会	免震重要棟について ほか(東京電力HD)
7月5日	地域の会委員と長岡技科大生による対話集会(長岡技術科学大学)	原子力システム安全工学の講義「技術コミュニケーション論」の実践的活動に参加(主催 長岡技術科学大学)
7月5日	第169回定例会	長岡技術科学大学生との対話集会報告について
7月22日	柏崎刈羽原子力発電所視察	構内安全対策状況、6・7号機建屋(6号機ギャラリー、中央制御室7号機管理区域)等を視察
8月2日	第170回定例会	防災について(広域避難計画の進捗状況など)
9月6日	第171回定例会	意見書・回答書に関する意見交換について
10月4日	第172回定例会	広域避難計画に関する意見交換(1/2回目)
11月1日	第173回定例会	広域避難計画に関する意見交換(2/2回目)
12月6日	第174回定例会	勉強会(リスクコミュニケーションについて) 講師:長岡技術科学大学 大塚雄市准教授 意見交換
平成30(2018)年		
1月10日	第175回定例会	委員フリートーク(会の運営などについて)
2月7日	第176回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うこと、伝えたいこと) オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感を受けて) 意見交換
3月7日	第177回定例会	フリートーク(情報共有会議を終えての感想など) ※定例報告の後、「地盤改良に関する一部報道」について東京電力HDから説明あり
4月11日	第178回定例会	3つの検証委員会(技術、健康・生活、避難)について(新潟県)
5月9日	第179回定例会	柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉液化状影響の検討方針について(東京電力HD)
6月6日	第180回定例会	新規基準による適合性審査の流れについて(規制庁)
7月4日	地域の会委員と長岡技科大生による対話集会(長岡技術科学大学)	会長の基調講演に続き、4つのテーマに分かれ委員及び学生が議論
7月4日	第181回定例会	委員フリートーク(テーマは会の運営、あり方について)
8月1日	第182回定例会	エネルギー基本計画について(1/2回目) ※説明のみ(資源エネルギー庁)
9月5日	第183回定例会	エネルギー基本計画について(2/2回目) ※質疑のみ(資源エネルギー庁)
9月26日-27日	福井県視察研修	関西電力(株)大飯発電所視察(26日)、おおい町及びおおい町議会と意見交換(27日)
10月3日	第184回定例会	フリートーク(大飯発電所視察報告)

年月日	会議・視察名	内容
11月21日	第185回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うこと、伝えたいこと) オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感を受けて) 意見交換
12月5日	第186回定例会	委員フリートーク(情報共有会議を終えて)
平成31(2019)年		
1月9日	第187回定例会	新規制基準適合性審査に係る申請状況等について(東京電力HD)
2月6日	第188回定例会	勉強会「モノはなぜ壊れるのか ～未然防止の基本的な考え方～」 講師：長岡技術科学大学 大塚雄市 准教授
3月6日	第189回定例会	前回定例会以降の動き ※質疑は2月分含む(東京電力HD、規制庁、資源エネルギー庁、新潟県、柏崎市、刈羽村)
4月10日	第190回定例会	前回定例会以降の動き ※質疑は3月分含む(東京電力HD、規制庁、資源エネルギー庁、新潟県、柏崎市、刈羽村)
4月10日	要望書の提出	原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出 提出先：経済産業大臣、内閣府特命担当大臣(原子力防災)、原子力規制委員会委員長、原子力規制庁長官、資源エネルギー庁長官、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力ホールディングス株式会社代表執行役社長

情報誌「視点」第84号～95号を発行

発電所を巡る動き

平成29(2017)年 7月25日	柏崎市長、東京電力HD社長との面談において、6・7号機の再稼働条件として2年以内に1～5号機の廃炉計画を策定するよう正式に要請
平成29(2017)年 9月13日	規制庁、東京電力HDの原子力発電事業者としての適格性を条件付きで了承
平成29(2017)年11月 7日	新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長、三者会談
平成29(2017)年12月27日	規制委員会、6・7号機が新規制基準を満たしているとする「審査書」を正式決定
平成30(2018)年 3月22日	柏崎市長、東京電力HDに対し使用済核燃料税について経年累進課税制度の導入を初めて正式に要請

第8期活動記録



柏崎刈羽原子力発電所視察



柏崎刈羽原子力発電所視察



長岡技術科学大学対話集会



長岡技術科学大学対話集会



福井県視察研修（大飯発電所視察）



福井県視察研修（福井県おおい町）



第167回定例会



第184回定例会

第8期 提言・意見・要望

経済産業大臣	世耕 弘成 様
内閣府特命担当大臣（原子力防災）	原田 義昭 様
原子力規制委員会委員長	更田 豊志 様
原子力規制庁長官	安井 正也 様
資源エネルギー庁長官	高橋 泰三 様
新潟県知事	花角 英世 様
柏崎市長	櫻井 雅浩 様
刈羽村長	品田 宏夫 様
東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長	小早川智明 様

1 国に対して

- ① 第5次エネルギー基本計画は平成30年7月に策定されましたが、国民への周知・説明は不足しており、特に原子力発電所立地地域へは、今後も丁寧な説明をするとともに、住民の意見を今後の基本計画に反映するようお願いいたします。また、基本計画の中で謳われている「高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた取り組みの抜本強化」については、今後の見通しを明確に示していただきますようお願いいたします。加えて、「原子力発電所立地自治体等との信頼関係の構築」については、地域の実態に即した立地地域支援の着実な実行をお願いいたします。
- ② 柏崎刈羽原子力発電所6・7号機の新規制基準による適合性審査は、「設置変更許可」については許可されたものの、「工事計画認可」及び「保安規定変更認可」は審査中です。重大事故が二度と繰り返されないよう厳密な審査をお願いするとともに、審査結果については国の責任において立地地域住民に丁寧な説明をお願いいたします。

2 新潟県・柏崎市・刈羽村に対して

- ① 原子力災害広域避難計画については、新潟県が本年3月に策定したことにより、柏崎市、刈羽村を含め三者の広域避難計画がようやく策定され、今秋には実働避難訓練も実施予定と聞いています。しかし、依然課題も多く実効性のある広域避難計画とは言えません。つきましては、三者連携のもと、「安定ヨウ素剤の配布」、「広域避難体制」、「避難経路の確保」、「三者の役割の明確化」などの課題解決を図るとともに、県民、市民、村民への丁寧な説明と意見聴取により、実効性のある広域避難計画への見直しを早期にお願いします。
- ② 新潟県原子力発電所事故に関する3つの検証について、検証作業の確実な実行と、県民、特に柏崎刈羽地域への丁寧な説明をお願いします。

3 東京電力ホールディングス株式会社に対して

東京電力ホールディングス株式会社における原子力発電所のトラブルについては、福島第一原子力発電所の過酷事故をはじめ、柏崎刈羽原子力発電所においては1号機の運転開始以来、軽微な事象も含めトラブルが100件を超えるなど、住民の信頼と安心を損なう事象が今現在も発生していることは極めて残念です。

トラブルの度に改善の取り組みがなされていますが、その後もトラブルが繰り返されているという事は、今までの取り組みが不十分であったと言わざるを得ません。

つきましては、組織改革、意識教育、コミュニケーション強化などの対策はもとより、安全につながる徹底した改革と確実な実行をお願いします。

第8期 地域の会委員名簿 (任期 平成29(2017)年5月1日～平成31(2019)年4月30日) 五十音順 敬称略

アイザワシンイチロウ 相澤新一郎	原発問題を考える刈羽西山住民の会	タケウチ エイコ 竹内 英子	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
イシカワ マリヨ 石川真理子	プルサーマルを考える医療者の会	タナカ ユウト 田中 有人	一般社団法人柏崎青年会議所
イシザカ ヤスオ 石坂 泰男	柏崎商工会議所	チハラ ケンジ 千原 健二	荒浜21フォーラム
イシダ ヨシヨ 石田ヨシ子	くらしをみつめる・・・柏桃の輪	ニシマキ ジュンイチ 西巻 淳一	連合新潟・柏崎地域協議会
イリサワ ダイスケ 入澤 大輔	刈羽村商工会	マチダ ヨシヒコ 町田 善彦	協同組合ニューエネルギーリサーチ
クワバラ ヤスヨシ 桑原 保芳	松浜地区町内会	ミイ ダヒロキ 三井田達毅	柏崎エネルギーフォーラム
サンゴウ リヤス 三宮 徳保	刈羽エネルギー懇談会	ミヤザキ タカシ 宮崎 孝司	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター
スダ トシメ 須田 年美	かしわざき男女共同参画推進市民会議	ヤマザキ マサトシ 山崎 正敏	南部コミュニティ協議会
タカグワ チェエ 高桑 千恵	原発反対刈羽村を守る会	ヨシダ リュウスケ 吉田 隆介	高浜地区町内会
タカハシ シンイチ 高橋 新一	柏崎刈羽原発反対地元三団体		

第9期 令和元(2019)年～令和3(2021)年

令和元(2019)年 5月 8日 第9期の始動。前期から1名減の委員18名でのスタート
 令和2(2020)年 2月 5日 地域の会、200回目の定例会を開催
 令和2(2020)年 3月～5月 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため定例会をやむなく中止
 令和2(2020)年 9月 青森県への視察研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
 令和3(2021)年 4月14日 第9期の総括として、原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出

経緯

年月日	会議・視察名	内容
令和元(2019)年		
5月8日	第191回定例会	委員依頼状授与とセレモニー、地域の会の概要について
6月5日	第192回定例会	新潟県原子力災害広域避難計画について(新潟県)
6月19日	地域の会委員と長岡技科大生による対話集会(長岡技術科学大学)	会長の基調講演に続き、4つのテーマに分かれ委員及び学生が議論
7月3日	第193回定例会	フリートーク(要望書への回答に対する質疑他)
8月7日	第194回定例会	長岡技術科学大学対話集会(6/19開催)の報告・感想、核燃料サイクル及び高レベル放射性廃棄物の最終処分勉強会(質疑)
8月31日	柏崎刈羽原子力発電所視察	構内安全対策状況、6・7号機建屋(6号機ギャラリ、中央制御室7号機管理区域)等を視察
9月4日	第195回定例会	フリートーク ①核燃料サイクル等勉強会を受けての意見・感想・質疑 ②柏崎刈羽原子力発電所見学を終えての意見・感想
10月2日	第196回定例会	令和元年度 新潟県原子力防災訓練について(新潟県、柏崎市、刈羽村)
11月11日	原子力施設立地地域に住む国内外オピニオンリーダーとの意見交換会	海外オピニオンリーダーとの意見交換会。柏崎刈羽地域代表として会長、両副会長が出席し、地域の会の活動等について説明し、意見交換を行った。
11月19日	第197回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うこと、伝えたいこと) オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感を受けて) 意見交換
12月4日	第198回定例会	柏崎刈羽地域原子力防災協議会・作業部会の概要について(内閣府)
令和2(2020)年		
1月8日	第199回定例会	新たな原子力規制検査制度の実施について(原子力規制庁)
2月5日	第200回定例会	令和元年度 新潟県原子力防災訓練について(新潟県、柏崎市、刈羽村)
3月4日	第201回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
4月22日	第202回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
5月13日	第203回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
6月3日	第204回定例会	前回定例会以降の動き、質疑応答(東京電力HD、原子力規制庁、資源エネルギー庁、新潟県、柏崎市、刈羽村)
7月1日	第205回定例会	工事計画認可の審査状況について(東京電力HD)
8月5日	第206回定例会	高レベル放射性廃棄物の地層処分について(資源エネルギー庁)
9月2日	第207回定例会	核燃料サイクルについて(資源エネルギー庁)
10月7日	第208回定例会	フリートーク ※8月・9月資源エネルギー庁議題の感想も含む
11月5日	第209回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うこと、伝えたいこと) オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感を受けて) 意見交換
12月2日	第210回定例会	フリートーク(情報共有会議を振り返って)

年月日	会議・視察名	内容
令和3(2021)年		
1月20日	第211回定例会	令和2年度新潟県原子力防災訓練について(新潟県・柏崎市・刈羽村)
2月3日	第212回定例会	新原子力規制検査制度について(原子力規制庁)
3月3日	第213回定例会	1月定例会議題「令和2年度新潟県原子力防災訓練について」の質疑応答
4月14日	第214回定例会	フリートーク(第9期を振り返って)
4月14日	要望書の提出	原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出 提出先: 経済産業大臣、資源エネルギー庁長官、内閣府特命担当大臣(原子力防災)、原子力規制委員会委員長、原子力規制庁長官、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力ホールディングス株式会社代表執行役社長

情報誌「視点」第96号～107号を発行

※第102号は、掲載予定の定例会が新型コロナウイルス感染症の拡大防止により中止となったため発行中止

発電所を巡る動き

令和元(2019)年 7月30日	東京電力HD、福島第二原子力発電所全4基の廃炉を正式決定
令和元(2019)年 8月26日	東京電力HD、1～5号機の廃炉計画について「柏崎刈羽原子力発電所の再稼働及び廃炉に関する基本的な考え方」を提出
令和2(2020)年 3月19日	柏崎市・東京電力HD、柏崎市使用済核燃料税条例経年累進課税化について基本合意
令和2(2020)年10月15日	政府、福島第一原子力発電所でたまり続ける処理水の海洋放出を決定する方針を固めた
令和2(2020)年10月30日	規制委員会、柏崎刈羽原子力発電所の保安規定を認可。7号機は再稼働に必要な3つの審査が全て終了
令和3(2021)年 1月12日	東京電力HD、7号機の新規制基準に基づく安全対策工事が完了したと発表
令和3(2021)年 1月23日	東京電力HD、令和2(2020)年9月下旬に東京電力社員が他人のIDカードを使用して発電所建屋内の中央制御室に入域した事案を発表
令和3(2021)年 1月27日	東京電力HD、7号機の安全対策工事で一部未完了があったと公表
令和3(2021)年 2月15日	東京電力HD、7号機の安全対策工事で一部未完了を踏まえた総点検の中で、新たに火災感知器の設置工事が一部未完了であったと公表
令和3(2021)年 2月19日	東京電力HD、柏崎刈羽原子力発電所における核物質防護に係る事案について公表
令和3(2021)年 3月23日	規制委員会、柏崎刈羽原子力発電所における核物質防護設備の機能の一部喪失に係る検査指摘事項の重要度評価結果を決定(重要度評価結果:重要度「赤」)
令和3(2021)年 4月14日	規制委員会、東京電力HDに対し、柏崎刈羽原子力発電所に対する特定核燃料物質の移動禁止の措置を命令
令和3(2021)年 4月14日	規制委員会、柏崎刈羽原子力発電所に対する追加検査の実施方針を決定

第9期活動記録



第191回定例会



長岡技術科学大学対話集会



原子力国内外オピニオンリーダーとの意見交換会



原子力国内外オピニオンリーダーとの意見交換会



第197回定例会（情報共有会議）



第197回定例会（情報共有会議）



第200回定例会



第204回定例会

第9期 提言・意見・要望

経済産業大臣	梶山 弘志 様
資源エネルギー庁長官	保坂 伸 様
内閣府特命担当大臣（原子力防災）	小泉進次郎 様
原子力規制委員会委員長	更田 豊志 様
原子力規制庁長官	荻野 徹 様
新潟県知事	花角 英世 様
柏崎市長	櫻井 雅浩 様
刈羽村長	品田 宏夫 様
東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長	小早川智明 様

1 国に対して

(1) 原子力政策の広報等について（経済産業省、資源エネルギー庁）

原子力政策について国は、様々な形で広報・周知・意見聴取などをされております。しかしながら、原子力発電所立地地域住民には断片的な情報しか入らず、意見が必ずしも政策に反映されているとは思いません。

ついては、

- ①政策の体系的な広報・周知をお願いします。
- ②重要な政策・局面については、国が前面に立ち丁寧な説明をお願いします。
- ③立地地域住民の様々な意見をくみ取り、エネルギー基本計画をはじめとした政策に反映するようお願いします。

(2) 高レベル放射性廃棄物の最終処分について（経済産業省、資源エネルギー庁）

国は「高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた取り組みの抜本強化」を謳っておりますが、具体的な取り組みが依然不透明であります。

ついては、

- ①今後の最終処分に向けた現実的な取り組み等の見通しを、明確に示していただきますようお願いいたします。

(3) 原子力発電事業者の更なる規制強化について（原子力規制委員会、原子力規制庁）

昨年10月、柏崎刈羽原子力発電所7号機は原子力規制委員会による安全審査が全て終了しました。

しかし、東京電力ホールディングス株式会社社員によるIDカード不正使用並びに柏崎刈羽原子力発電所における核物質防護設備の機能の一部喪失という核物質防護規定に反するような事象が発生しました。

ついては、

- ①今回の事象に関する一連の対応と安全審査との関係について、立地地域住民に対し丁寧な説明をお願いします。
- ②二度とこのような事象が起きないように、原子力発電事業者に対し、更なる規制強化及びそれに伴う原子力規制庁の組織強化をお願いします。

(4) 実効性のある広域避難計画策定への支援について（内閣府）

原子力発電所立地自治体は、国の指導のもと広域避難計画を策定しました。しかしながら、今冬の大雪により新たな問題が発生するなど、計画には依然課題が山積しています。また、これらの課題解決には、計画を策定した自治体だけでは困難と考えられます。

ついては、

- ①課題解決に向け、国の全面的な支援と強いリーダーシップをお願いします。

2 新潟県・柏崎市・刈羽村に対して

(1) 実効性のある避難計画の策定について（新潟県、柏崎市、刈羽村）

広域避難計画については、新潟県主催による総合訓練が2年連続で実施され、様々な課題が浮き彫りになってきました。また、今冬の大雪により避難道路の確保が大きな課題となりました。

ついては、

- ①今までの課題や住民の意見を踏まえ、新潟県、柏崎市、刈羽村3者の強力な連携のもと、実効性のある広域避難計画にするようお願いします。

(2) 安全確保に関する協定書の見直しについて（新潟県、柏崎市、刈羽村）

柏崎刈羽原子力発電所におけるIDカード不正使用の事象においては、当初、核セキュリティ関連ということで、情報が立地地域住民には知らされず報道で知ることとなりました。

については、

①東京電力ホールディングス株式会社と締結している安全確保に関する協定書において、今回の事象である核セキュリティ関連についても法令の範囲で情報公開できるよう見直しをお願いします。

(3) 原発事故に関する3つの検証について（新潟県）

新潟県原子力発電所事故に関する3つの検証については、順次取りまとめがなされてきています。今後、検証総括委員会において、3つの検証結果のとりまとめが行われると聞いています。

については、

①検証総括委員会での十分な議論をお願いするとともに、3つの検証結果のとりまとめ結果を立地地域住民に対し丁寧な説明をお願いします。

3 東京電力ホールディングス株式会社に対して

柏崎刈羽原子力発電所におけるIDカード不正使用、核物質防護設備の機能の一部喪失及び安全対策工事の未完了案件などの事象については、御社の「適格性」を疑いかねない誠に残念な事象であると考えています。また、この事象は柏崎刈羽原子力発電所の安全性・透明性を確保することを目的に活動してきた当会にとっても大きな失望であり、18年間の議論のなかで少しずつ積み上げてきた信頼関係が崩れかねないものでもあります。

については、次のとおり強く要望します。

①上記事象の再発防止対策に加え、会社全体の意識・体質の抜本的な見直しと継続的な実行をお願いします。

②原因調査結果及び再発防止対策等について、立地地域住民に丁寧な説明をお願いします。

③新潟県、柏崎市、刈羽村と締結している安全確保に関する協定書において、今回の事象である核セキュリティ関連についても法令の範囲で情報公開できるよう見直しをお願いします。

第9期 地域の会委員名簿（任期 令和元(2019)年5月1日～令和3(2021)年4月30日） 五十音順 敬称略

アイザワシンイチロウ 相澤新一郎	原発問題を考える刈羽西山住民の会	タカキ ノリアキ 高木 則昭	高浜地区町内会
イシカワ マリコ 石川真理子	プルサーマルを考える医療者の会	タカクワ チエ 高桑 千恵	原発反対刈羽村を守る会
イシザカ ヤスオ 石坂 泰男	柏崎商工会議所	タカハシ シンイチ 高橋 新一	柏崎刈羽原発反対地元三団体
イシツカ オサム 石塚 修	協同組合ニューエネルギーリサーチ	タケウチ エイコ 竹内 英子	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
カンバヤシ ヒトン 神林 仁	一般社団法人柏崎青年会議所	チハラ ケンジ 千原 健二	荒浜21フォーラム
キムラ マサタカ 木村 正隆	刈羽村商工会		任期：令和2(2020)年4月30日まで
クワバラ ヤスヨシ 桑原 保芳	松浜地区町内会	ニシマキ ジュンイチ 西巻 淳一	連合新潟・柏崎地域協議会
サンゴウ ノリヤス 三宮 徳保	刈羽エネルギー懇談会	ミイダ ヒロキ 三井田 達毅	柏崎エネルギーフォーラム
シナダ センジ 品田 善司	荒浜21フォーラム	ミウラ ノリト 三浦 法人	南部コミュニティ協議会
	任期：令和2(2020)年5月1日から	ミヤザキ タカシ 宮崎 孝司	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター
スダ トシミ 須田 年美	かしわぎき男女共同参画推進市民会議		

第10期 令和3(2021)年～令和5(2023)年

令和3(2021)年 5月12日 第10期の始動。前期から2名減の委員16名でのスタート
 令和3(2021)年 9月 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため定例会をやむなく中止
 令和4(2022)年 2、3月 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため定例会をやむなく中止
 令和4(2022)年 9月 青森県視察研修を実施。リサイクル燃料貯蔵(株)リサイクル燃料備蓄センター
 及び日本原燃(株)原子燃料サイクル施設を視察
 令和5(2023)年 4月12日 第10期の総括として、原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出

経緯

年月日	会議・視察名	内容
令和3(2021)年		
5月12日	第215回定例会	委員依頼状授与セレモニー、地域の会の概要について
6月2日	第216回定例会	要望書の回答について、フリートーク
7月7日	第217回定例会	避難マニュアル・避難計画の変更点について(新潟県・柏崎市・刈羽村)
8月4日	第218回定例会	避難マニュアル・避難計画等についての質疑応答
9月1日	第219回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
10月6日	第220回定例会	避難マニュアル・避難計画等についての質疑応答 2回目
11月10日	第221回定例会(情報共有会議)	委員所感表明(今一番思うこと、伝えたいこと) オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感を受けて) 意見交換
12月1日	第222回定例会	情報共有会議を振り返って
令和4(2022)年		
1月12日	第223回定例会	東京電力HDの改善措置計画報告書について(東京電力HD・原子力規制庁)
2月2日	第224回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
3月2日	第225回定例会	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
4月13日	第226回定例会	地域原子力防災協議会及び作業部会についての概要説明(内閣府)
5月11日	第227回定例会	エネルギー基本計画について(資源エネルギー庁)
6月1日	第228回定例会	新潟県原子力災害時避難経路阻害要因調査について(新潟県)
7月6日	第229回定例会	核燃料政策について(資源エネルギー庁)
8月3日	第230回定例会	視察施設の概要説明について(東京電力HD)
9月4日-5日	青森県視察研修	リサイクル燃料貯蔵(株)リサイクル燃料備蓄センターを視察(4日)、 日本原燃(株)原子燃料サイクル施設を視察(5日)
9月7日	第231回定例会	フリートーク(視察研修の感想)
10月5日	第232回定例会	福島第一原子力発電所の廃炉の取組について(東京電力HD)
11月2日	第233回定例会(情報共有会議)	委員所感・質問・意見 オブザーバー代表者挨拶・所感(委員所感・質問・意見を受けて) 意見交換
12月7日	第234回定例会	情報共有会議を終えて(フリートーク)
令和5(2023)年		
1月11日	第235回定例会	原発事故に関する3つの検証の説明会・意見交換会について(新潟県)
2月1日	第236回定例会	令和4年度新潟県原子力防災訓練について(新潟県・柏崎市・刈羽村)
3月1日	第237回定例会	1月議題「原発事故に関する3つの検証の説明会・意見交換会について(新潟県)」、2月議題「令和4年度新潟県原子力防災訓練について(新潟県・柏崎市・刈羽村)」に対する委員質問の回答について
4月12日	第238回定例会	第10期を振り返って(フリートーク)

年 月 日	会議・視察名	内 容
4月12日	要望書の提出	原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書を提出 提出先：経済産業大臣、資源エネルギー庁長官、内閣府特命担当大臣 (原子力防災)、原子力規制委員会委員長、原子力規制庁長官、新潟県 知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力ホールディングス株式会社代表 執行役社長

情報誌「視点」第108号～119号を発行

発電所を巡る動き

令和3(2021)年11月27日～28日	新潟県、原発事故に関する3つの検証の説明及び意見交換会開催(27日柏崎市産業文化会館、28日刈羽村役場)
令和4(2022)年 3月30日	東京電力HD、本社原子力部門の一部を柏崎市に移転することを発表
令和4(2022)年 4月27日	規制委員会、東京電力HDに対して行っている追加検査の中間報告を公表。一連の問題は柏崎刈羽原子力発電所に固有の問題と判断
令和4(2022)年 8月24日	首相、令和5(2023)年夏以降に柏崎刈羽原子力発電所6・7号機を含む新規規制基準の審査に合格した原子力発電所7基の再稼働を目指す方針を表明
令和4(2022)年11月 5日～23日	新潟県、原発事故に関する3つの検証の説明及び意見交換会開催(5日長岡市立劇場、11日柏崎市産業文化会館、12日上越市教育プラザ、23日新潟ユニゾンプラザ)
令和5(2023)年 2月10日	政府、原子力政策転換を盛り込んだGX(グリーントランスフォーメーション)実現に向けた基本方針を閣議決定

第10期活動記録



第215回定例会



第215回定例会



第221回定例会（情報共有会議）



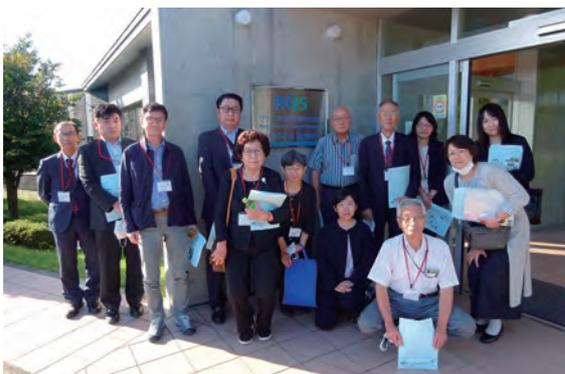
第228回定例会



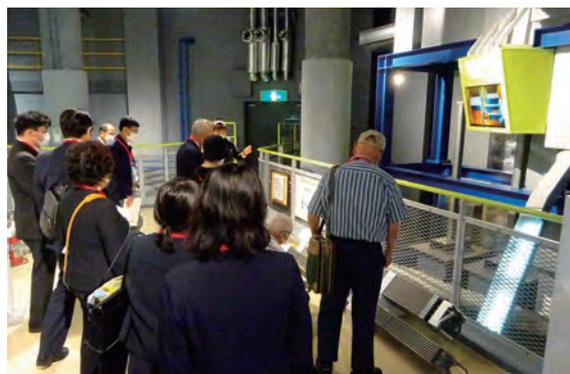
第233回定例会（情報共有会議）



新潟県知事訪問



青森県視察研修（むつ市）



青森県視察研修（六ヶ所村）

第10期 提言・意見・要望

経済産業大臣	西村 康稔 様
資源エネルギー庁長官	保坂 伸 様
内閣府特命担当大臣（原子力防災）	西村 明宏 様
原子力規制委員会委員長	山中 伸介 様
原子力規制庁長官	片山 啓 様
新潟県知事	花角 英世 様
柏崎市長	櫻井 雅浩 様
刈羽村長	品田 宏夫 様
東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長	小早川智明 様

1 国に対して

(1) エネルギー安全保障に対する原子力政策について（経済産業省、資源エネルギー庁）

ロシアによるウクライナへの侵攻により、世界経済は混迷の度合いを深め、エネルギー価格や物価の高騰、電力不足などが大きな問題となっています。

また、原子力政策について国は、原子力発電所の活用を進めるとし、政策推進のために前面に立つと明言されました。しかし、原子力発電所立地地域住民には、国の具体的な動きがまったく見えず必ずしもその本気度が伝わってきていないと言わざるを得ません。

ついては、

- ①エネルギーの安定供給のための具体的な政策を、説明・周知していただきたい。
- ②エネルギー政策の基本的視点である「S+3E」の、国民的理解を深める活動を進めていただきたい。
- ③原子力発電所の運転期間の延長について、国の責任において、その安全性をより丁寧に電源立地地域の住民に説明していただきたい。

(2) 実効性のある広域避難計画策定への支援と施設整備について（内閣府、原子力規制委員会）

柏崎・刈羽地域では、毎年のように大雪による道路の渋滞や停電が発生し、今冬においても、北陸自動車道と国道8号が最大で50時間もの間、通行不能になったほか、約4日間に及ぶ大規模停電も発生しました。このような自然災害と原子力災害が複合的に発生した際の安全な住民避難は大きな課題であり、国が前面に立って、より実効性のある避難計画策定のための方策を示すことが必要であると考えます。

ついては、

- ①原子力災害対策指針のさらなる充実を図るとともに、より実効性のある避難計画の策定のため新潟県と柏崎市、刈羽村に対する国の全面的な協力をお願いしたい。
- ②広域避難のための道路整備と除雪、排雪、融雪施設等の整備拡充をお願いしたい。
- ③放射線防護施設、設備などの整備拡充をお願いしたい。

(3) 原子力発電事業への規制の強化について（原子力規制委員会、原子力規制庁）

令和3(2021)年4月、柏崎刈羽原子力発電所のテロ対策の不備が相次いだ問題で、原子力規制委員会は、同原発の核燃料の移動を禁じるなどの是正措置命令を出しました。

現在、追加検査が行われており、移動禁止命令の解除を判断する時期は、見通せない状況となっています。

ついては、

- ①慎重かつ十分な審査の状況などについて、地域住民に対する丁寧な説明と適時適切な情報提供をお願いしたい。
- ②原子力発電所の安全性を高めるため、現地事務所の人員を増強するなど、組織体制の強化をお願いしたい。
- ③一連の不祥事の再発を防止するため、原子力発電事業者に対し、更なる規制の強化をお願いしたい。

(4) 核燃料サイクルと高レベル放射性廃棄物の最終処分について（経済産業省、資源エネルギー庁）

国は、本年2月に高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針を改定すると発表しました。改定案では、最終処分の実現に向け「政府は一丸となり、政府の責任で取り組む」とし、文献調査に関心を示す地域の関係先に対し、自治体が受け入れを判断する前から、国が検討を申し入れる考えを盛り込むとされています。

ついては、

- ①最終処分に向けた具体的な取組等の見通しを、明確に示していただきたい。

2 新潟県・柏崎市・刈羽村に対して

(1) 実効性のある避難計画の策定について（新潟県、柏崎市、刈羽村）

当地域では、大雪のたびに重要な避難道路である北陸自動車道と国道8号の渋滞や通行止め、幹線道路の渋滞が繰り返されています。一方で、令和5(2023)年2月に行われた新潟県主催の冬季原子力防災訓練では、停電時の避難確認などが雪のない状況のなかで行われ、訓練の条件や内容に様々な課題が明らかになりました。

については、

- ① 住民避難の実効性を高めるため、様々な条件下での訓練の実施をお願いしたい。
- ② 訓練によって明らかになった課題と住民の意見を踏まえ、新潟県、柏崎市、刈羽村3者の強力な連携のもと、より実効性のある広域避難計画の策定をお願いしたい。
- ③ 豪雪や風水害、猛暑等の自然災害と原子力との複合災害時における、より安全な住民避難の方法について検討をお願いしたい。

(2) 原発事故に関する3つの検証について（新潟県）

新潟県原子力発電所事故に関する3つの検証の一つである「健康・生活委員会健康分科会」の報告書が取りまとめられ、3つの検証のすべての報告書が出そろうことになりました。

については、

- ① 検証総括委員会で十分に議論し、その結果を丁寧に説明していただきたい。
- ② 花角知事には、各検証委員会と技術委員会が出された結果を尊重し、最終的な判断をお願いしたい。

3 東京電力ホールディングス株式会社に対して

(1) 信頼回復に向けた取組について

平成14(2002)年に明らかになった柏崎刈羽原子力発電所における「自主点検作業記録」の意図的な改ざん、隠ぺいなどの不正問題を契機に、地域の会は発足しました。

その後も、IDカードの不正使用、核物質防護設備の機能の一部喪失及び安全対策工事の未完了、最近では審査書類の流用問題など、数多くの不適切な事象が発生しています。

本社原子力部門の当地域への移転など、評価できる対応もありますが、全体的な取組としては極めて不十分であると言わざるを得ません。

本年4月で10期20年の節目を迎える地域の会として、次のとおり強く要望します。

- ① 不適切な事象の原因究明を徹底し、責任の所在を明らかにするとともに、再発防止対策に加え、会社全体の意識・体質の抜本的な改革と継続的な見直しをお願いしたい。
- ② 地域住民をはじめ、新潟県、柏崎市、刈羽村及びその他周辺自治体に対して、迅速かつ正確な情報発信に努め、更なる連携を図りながら信頼性の向上に精励していただきたい。
- ③ 原子力発電所の運営という重大な責務を自覚し、高い規範意識と自己浄化能力を有する社員の育成と企業風土の醸成をお願いしたい。

第10期 地域の会委員名簿 (任期 令和3(2021)年5月1日～令和5(2023)年4月30日) 五十音順 敬称略

アイザワシンイチロウ 相澤新一郎	原発問題を考える刈羽西山住民の会	シナダ センジ 品田 善司	荒浜21フォーラム
オダ シュウイチ 小田 修市	柏崎商工会議所	スズダ トシユキ 須田 年美	かしわざき男女共同参画推進市民会議
オナ ミチユキ 小名 道幸	南部コミュニティ協議会	タカキ ノリアキ 高木 則昭	高浜地区町内会
オノ トシオ 小野 敏夫	松浜地区町内会	タカハシ シンイチ 高橋 新一	柏崎刈羽原発反対地元三団体
カワグチ ヤスフミ 川口 泰史	一般社団法人柏崎青年会議所 任期：令和4(2022)年5月1日から	エイケイ エイコ 竹内 英子	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
カンバヤシ ヒトシ 神林 仁	一般社団法人柏崎青年会議所 任期：令和4(2022)年4月30日まで	ホンマ タモツ 本間 保	プルサーマルを考える医療者の会
サカモト ケイ 坂本 啓	刈羽村商工会	ミイダ ジュン 三井田 潤	原発反対刈羽村を守る会
サンゴウ ノリヤス 三宮 徳保	刈羽エネルギー懇談会	ミイダ ヒロキ 三井田 達毅	柏崎エネルギーフォーラム
		ミヤザキ タカシ 宮崎 孝司	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター

第1期～第5期振り返りトピックス

<p style="text-align: center;">第 1 期</p>	<p>◆平成15(2003)年～平成16(2004)年</p> <p>平成14(2002)年東電の不正問題発覚、3回の準備会を経て原発の賛成、反対、中立の立場の委員24名で発足</p> <p>平成15(2003)年4月予備会議、5月第1回定例会を開催。会長は決められず、しばらくは、柏崎市の品田市民生活部長が、進行役となる。3月に会長に新野良子、副会長に今井長司を選出</p> <p>◆平成16(2004)年～平成17(2005)年</p> <p>10月23日 中越大震災</p>
<p style="text-align: center;">第 2 期</p>	<p>◆平成17(2005)年～平成18(2006)年</p> <p>8月26日 原子力委員会に対して「原子力政策大綱(案)に対する意見書 検討書」を提出</p>
<p style="text-align: center;">第 3 期</p>	<p>◆平成19(2007)年～平成20(2008)年</p> <p>7月16日 中越沖地震発生。発電所も被災し全号機止まる</p> <p>◆平成20(2008)年～平成21(2009)年</p> <p>6月19～21日 IAEA、耐震安全性に関するIAEA国際ワークショップを開催</p> <p>地域では、中越沖地震に伴う説明会、意見交換会が開催される</p> <p>県では、技術委員会が頻繁に開催される</p>
<p style="text-align: center;">第 4 期</p>	<p>◆平成21(2009)年～平成22(2010)年</p> <p>11月8日 7号機再起動(10日発電開始)</p> <p>◆平成22(2010)年～平成23(2011)年</p> <p>3月11日 東北地方太平洋沖地震発生。東京電力福島第1発電所が、原子力事故</p> <p>3月24日 東北地方太平洋沖地震をうけて、内閣総理大臣、経済産業大臣、衆参両院議長、原子力委員会委員長、原子力安全委員会委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院院長、泉田裕彦新潟県知事、会田洋柏崎市長、品田宏夫刈羽村長、清水正孝東京電力(株)代表取締役社長に対して「意見書」を提出</p>
<p style="text-align: center;">第 5 期</p>	<p>◆平成23(2011)年～平成24(2012)年</p> <p>10月5日 第100回定例会 委員意見表明「住民の観点から過去・現在・未来を語る」開催</p> <p>◆平成24(2012)年～平成25(2013)年</p> <p>7月18日 富岡町生活復興支援センター(郡山市)、原子力災害現地対策本部(福島市)を視察</p>

第11期委員よりひとこと



地域の会20周年によせて

三井田 達毅

地域の会の目的は、原子力発電に対して様々なスタンスの方が一堂に会し、当地にある原子力発電所の安全について状況を確認し、地域住民目線による監視と必要な提言を行うとされています。

この会では様々な発言がされている訳ですが、私は色々な意見の違いは『課題(=リスク)に対しての向き合い方』の違いなのかなと思っています。

リスクがあるから駄目なのか？リスクはあるが対策によって低減が可能なのか？低減後のリスクの大きさは許容出来るのか？より良い解決策を目指して検討している状態(検討期間)は、実際何の対策を行っていないため、リスク対策効果はゼロで、危険性の排除が全く出来ない=何もしていない状態と同じである事も忘れてはいけません。

世の中には、『絶対』も『100%安全=リスクゼロ』もありません。安全(性)は事前の対策(リスクマネジメント)と起きてしまった後の被害(損害)軽減の対応(クライシスマネジメント)で高めていくしかないのが現実だと思っています。

以上を踏まえた上で、発言(提言)は論理的かつ冷静に積み上げられ、安全性向上に寄与する提案であるべきだと思っています。



地域住民のための地域の会に

岡田 和久

第11期より委員として地域の会に参加させていただいています。何度か一般傍聴をさせていただいていたものの、実際に委員として参加してみると、オブザーバーからの報告にはない部分にまで意見や質問をされる委員もおり、その見識の深さに感心するばかりです。

しかしながら、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保するための意見の交換でありながら、東京電力に期待する意見、原子力発電所の必要性を認める意見、柏崎刈羽地域には東京電力も原子力発電所も必要ないという意見など、様々な意見が飛び交う様子は、ときに透明性を確保という目的とはかけ離れたイデオロギーまで感じてしまうほどあります。

原子力発電所の運営に直接または間接的に関わるオブザーバーでは見落としてしまう住民目線の意見が発電所の運営に反映されるよう、また、それが地域の会の委員だけでなく、地域住民の皆様にも共有され、原子力発電所に対してご自身の意見を持ってもらえるよう、地域の会が今後も落ち着いた議論の場であり続けることを望み、微力ながらそこに貢献できるよう努めてまいります。



地域の会20周年によせて

小田 修市

地域の会に参加してから2期3年目となりました。東日本大震災後、日本の電力政策は大きく変わり、原子力発電所を取り巻く環境も変化しました。津波対策を軸に安全管理体制が大幅に見直され、柏崎刈羽原子力発電所では新規制基準対応のための様々な工事が進む中、地元では再稼働に向けた議論がなされています。

世界の各地で紛争が勃発、地球温暖化が沸騰化と呼ばれるまでになり、世界情勢や気候までもが混沌としています。そのような情勢下で温室効果ガスを削減し、安定した電力を維持していくには現実には添った選択をする以外にありません。

原子力発電所は少なくとも数十年間は必要であると思います。個々の意見は様々かと思いますが、止めるという選択をすれば実現可能な代替案が必要であるということにも目を向け、考えていただきたいです。

今まで尽力されてきた諸先輩方に敬意を表しながら、微力ですが地域の安全と発展のためになるような発言をしていこうと思います。



地域の会20周年によせて

品田 善司

『地域の会』設立20周年、先人の方々の熱意とご努力の賜物と敬意を表します。直近の10年間で世界的にエネルギー政策が変化している中、日本も脱炭素社会とエネルギー安定供給を実現する為の基本方針がまとめられました。エネルギー資源に乏しい日本にとって昨今の電力需給ひっ迫や価格高騰はエネルギー安定供給確保の重要性が再認識されています。

東日本大震災以降運転を停止していた柏崎刈羽原子力発電所は現在、新規制基準に則り、改善計画を踏まえた取り組みを行っているところです。今後は再稼働への取り組みが進化し、安全最優先で安心出来る発電所を目指してほしいものです。

考え方や視点の異なる住民がオブザーバーと本音で向き合い議論し、情報を共有する『地域の会』これからも一住民として柏崎刈羽地域を愛する気持ちと活性化を念じ参加したいと思っています。

これからの10年、発電所の改革、改善が一過性のものでないことが証明されることを期待しています。



地域の会20周年によせて

須田 年美

前任者からなるべく欠席はしないで…と言われ、原子力発電所について何も知識がないなら毎回出席するしかないと感じ、会議を休むことなく出席し続けました。しかしながら、なかなか質問の手を挙げることができず消化不良に終わることもしばしば、時には自分に発言を求められることが恐怖のこともありました。最近やっと質問や発言のタイミングが少しばかり理解出来たかなと感じております。

こんな日々の中でも、いろいろな人との出会いに感謝しております。



地域の会20周年によせて

竹内 英子

東京電力によるデータ改ざんや隠蔽が繰り返されるなか、2002年の自主点検作業記録不正事件を機に、住民が情報公開を求める場として地域の会が設けられました。2011年には東京電力が運転する福島第一原発で過酷事故が起き、今も柏崎刈羽原発では不備や不正が明らかになり続けています。私が委員になってから柏崎刈羽原発関連で最も衝撃的だった出来事は、核物質防護設備が機能しない状態で放置されていたことでした。

柏崎刈羽原発は420万㎡の敷地に7機の原子炉が海岸線に沿って並んでいる、国内でも格段に広い原発です。中越沖地震で被災した後あらゆる箇所で補強工事が行われ、さらに、フクシマ原発事故後には大がかりな安全対策工事が行われ続けています。核物質防護設備の不備では、東京電力が広大な敷地にある後付け工事で複雑化した設備を把握できていない危機感を覚えました。

今、柏崎刈羽原発の実情を知らない国により再稼働が強引に推し進められています。地域住民、そして柏崎刈羽原発の現場を知るオブザーバーによる地域の会での事実に基づくやり取りが、再び安全神話に流されない契となることを願います。



地域の会20周年によせて

相澤 新一郎

地域の会20年、おめでとうございます。もう少し女の人が増えればよいと思います。月一回集まって会議は、有意義だと思います。これからもよろしくお願ひします。今回は委員の人数も増え、良かったです。これからも、体に気をつけていきましょう。



地域の会20周年によせて

阿部 正昭

柏崎刈羽原子力発電所の1～7全号機が運転開始したのが平成9年でした。自主点検作業記録不正問題の発覚を契機に、平成15年に「地域の会」が発足しました。20年の長きにわたり、会の維持・運営にご努力されてきた関係者の皆様に感謝申し上げます。

中越大震災、中越沖地震、東日本大震災を経て、柏崎刈羽原子力発電所での安全性確保が共通な思いとなりました。様々な主張を持つ住民で構成されている「地域の会」の役割は、発電所の現況・取組みを確認し、事業者・国・自治体へ意見・提言を発出し、説明・情報を得ることにあります。

令和3年より、新規制基準に基づく改善措置が原子力規制委員会から指摘され、是正工事、追加検査が実施されています。

- ・原子炉主要設備の健全性確認
- ・災害・テロ・セキュリティなどの防護設備強化
- ・事業者（東京電力）の適格性管理見直し

新潟県による、原子力災害避難計画の策定が望まれます。国の原子力防災の取組み状況を捉え、実効性のある避難計画を整えつつ、原発再稼働是非の議論が進展することを期待します。



地域の会20周年によせて

飯田 耕平

地域の会が20周年を迎えられたことに心よりお祝いを申し上げます。

さて、今年は、福島第一原発事故で発生した核汚染処理水の海洋放出が始まりました。8月21日の岸田首相と坂本全漁連会長との面談後、「関係者の一定の理解が得られた」として核汚染処理水の海洋放出を決定しました。2015年に政府と東電と福島県漁連などの関係者と交わした「関係者の理解なくしては、いかなる処分も行わない」との約束は反故にされました。面談の前日、岸田首相が「放出実施の判断は最終段階に入った」と発言しましたが、最終段階の判断は誰がどのように判断

したのでしょうか。

政府は「処理水は科学的に安全」と言っていますが、デブリに触れた汚染水の処理は世界で初めてのことです。海洋放出が最適な処分方法とは思いません。あらゆる英知を結集することを願ってやみません。私は、原発の発電システムは核燃料サイクルを含め未だ未確立の技術と思っています。

柏崎刈羽原発の使用済み核燃料問題を含め、今後とも地域の会が真摯で活発な意見の交流と論議が行われることを願ってやみません。



地域の会20周年によせて

小野 敏夫

私は2期3年目の会員です。20周年を迎える会ということで、改めてこの会の意義深さを深く認識しています。

この会に参加して、会員の発言の活発さと真摯で熱心な姿勢に敬意を表します。

この会は、内閣府・資源エネルギー庁・規制庁・行政(県・市・村)等・東電が、互いに発電所の安全・安心を巡り、活発な情報交換、率直な意見交換の場であり、透明性の確保と必要な提言を行っています。

私は、町内に立地する柏崎刈羽原子力発電所と協力企業の社員の地域活動に、深く感謝しています。

海岸清掃、閻魔市やぎおん柏崎祭り後の清掃、海岸道路の砂出し、荒浜いわし祭りへの参加、荒浜諏訪神社の春・秋祭りの参拝、青山稻荷神社春秋祭りの参拝など、地域の一員として地域作りに参加いただき、人口減で担い手が少ないなか有り難く、加えて県内各所で催される東電の「防災フェア・エネルギーフェア」の活動は今日的なエネルギー教育で、その未来志向は意義深いと嘯み締めています。



地域の会 20周年について

細山 恭輔

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」(以下、地域の会)が令和5年5月で発足20周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

第11期委員について打診を受けた際、地域の会事務局から事前に話を聞く機会がありましたが、そこで聞いた話は、自分が今まで地域の会に対し抱いていた認識とは大きく違うものでした。それまでは、地域の会とは原発に反対する人たちの団体だという認識でした。私が生まれる前から柏崎刈羽原子力発電所は既に営業運転を開始しており、稼働しているのが当たり前という環境にあったこと、また、地域の会の活動がメディアに取り上げられる際、原発反対派による意見が多かったことにより意識づけられていたのだろうと考えています。

実際に委員として地域の会に参加してみると、委員から出される意見は推進中立反対それぞれ出されておられ、偏りが無いことに驚きました。このような場となるまで、設立以降尽力いただいた委員および関係者の方々には感謝の言葉しかありません。今後も地域の会の活動が末永く続くことを祈念いたします。



素朴な視線による意見・提言

西村 雄二

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」の発足から20周年を迎え、記念誌が発行されますこと、心からお祝い申し上げます。

平成15(2003)年5月の発足から20年という長きにわたり、会則の目的「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会は、柏崎刈羽原子力発電所立地地域の住民の参画により、発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取り組み、並びに国及び関係自治体の活動状況等を継続して確認・監視し、提言を行うことにより、発電所の安全を確保することを目的とする」を果たすべく、議論を重ね、情報発信を継続してこられたこの地域の会の役割は大きなものであると感じています。

今年度から委員として定例会に参加しておりますが、他の委員さんの知識の豊かさと一生懸命さに圧倒されています。私自身も関心を高め、素朴な視線による意見や提言を大事にしていこうと考えております。



地域の会が意義ある会であるために

本間 保

私は地域の会が発足した年から1期2年間会の委員として参加し、2021年から復帰しております。

20年前と比べ、東電は変わったのか？ 露骨な隠蔽は以前より減ったかと思いましたが、2011年の福島原発事故では「メルトダウン」を隠そうとしていたことが明らかになり、日本の原発史上最悪の時にあっても隠蔽体質は変わっていなかったという思いでした。先日も漁協との約束を破ってALPS処理水の放出を行い、東京電力との約束は守られないものだということが再び鮮明になりました。

また、最近気になるのは「テロ対策」を口実に堂々と情報が非公開化にされている事です。テロ対策と言えば情報をほとんど公開しない方がいいという事は大きな問題だと感じます。

もう一点、地域の会の構成について、委員の任期が10年と限られ、各分野で専門的知見のある委員が外されました。それにより議論が低調になったという感は否めません。これは、地域の会が緊張感のある、内容の高い議論ができる会であるための課題なのかなと思っています。



地域の会20周年によせて

三井田 潤

地域の会20周年おめでとうございます。いつまでも続くことを願っております。この会の委員を務めておりますが地元住民の目線で善良なる管理者の注意義務を持ち信義誠実の原則で臨んでいます。地元住民の最大利益は発電所の安全でありますので東京電力様にはこのことを切にお願いいたします。

特に非常用の電源喪失は福島原発事故と同様な大惨事を招きます。最低でもRCICやHPAC等を動かす直流電源だけでも確保しなければ駄目です。しかし、原子炉圧力60気圧から10気圧までは給水できても10気圧以下は止まってしまう圧力7.5気圧まで給水できません。説明ではバント操作で水位監視をしながらなんとか7.5気圧で給水できるまで操作するといわれましたがバントによる汽水共発が心配です。だから、交流電源の確保がされていれば通常停止操作が可能です。故にこのような質問をしますが事故になる前に安全対策をしてほしいからです。

再稼働するならばそれ相応の覚悟が必要です。今以上奮励努力をお願いします。



地域の会20周年によせて

水品 栄人

発電所立地地域で事業を営み、暮らす者として最低限の知識は持っているつもりでしたが、定例会では毎回学ぶことが多く刺激を頂いております。いち委員として当地域の抱えるエネルギー問題について更に考えを深めて参りたいと思います。



地域の会20周年によせて

水戸部 智

地域の会発足から20年の節目に、委員を拝命し身の引き締まる思いです。改めて20周年おめでとうございます。諸先輩方が紡いでこられた柏崎刈羽地域と原子力発電所の歩みは、私達の日々の生活を支え地域の発展に寄与してきた活動だと理解しています。

他の地域と同様、柏崎刈羽地域も人口減少や少子高齢化に伴う地域社会の様々な歪が顕在化し、多くの問題として表出しています。陸の孤島と呼ばれた地域を活性化するために、砂丘地の開発に着手し産業振興の一翼を担ってきた柏崎刈羽原子力発電所は、今後も国のエネルギー政策における重要な役割を果たしていくものだと考えております。地域の会としては、引き続き立地地域住民とステークホルダーとの対話の場をつくり、柏崎刈羽地域のより良い未来のために透明性を担保する存在として、役目を果たし続けていただきたいと思います。

私自身も、地域の会の一員としてこのまちの未来を真剣に考え、議論できるよう精進していく所存です。若輩者ではございますが、次代を担う若者の一人として自身の意見を届けられれば幸いです。



地域の会 新任委員になって

安野 検一

これまでの年月において240回からの定例会を行い、様々な疑問や意見等を出し合い情報開示を積極的にやられていた地域の会の運営には、本年4月より新任委員として参加している私にとっては、この半年間は驚きの毎月定例会でした。

ただ、この間に感じられることは毎月の定例会における貴重な内容が推薦団体にフィードバックされて、私に関してであれば南部コミュニティ協議会において意見集約をして次回定例会に反映させるには、時間があまりにも無さすぎるように感ずる。考え方の方向性が一致している推薦団体であれば委員の意見も間違えることはないであろうが、私のような不特定多数の会員で構成されている協議会では、今後の原子力発電所との向き合い方をどのようにするかという事を協議し、方向性を確認しておかないと発言自体がすべて私的なものになってしまうように感ずる。

また、この間の定例会から感ずることは、東京電力において再稼働させるためのマニュアル作成やリスクマネジメント等規範が発信されているが、この様な完璧な規範が出来上がっているから再稼働が出来ると思うのではなく、「出来る出来た」は大きな違いであることを理解し出来たという結果を出せるように活動して頂きたい。

第11期 地域の会委員名簿 (任期 令和5(2023)年5月1日～令和7(2025)年4月30日) 五十音順 敬称略

アイザワシンイチロウ 相澤新一郎	原発問題を考える刈羽西山住民の会	タケウチ エイコ 竹内 英子	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
アベ マサアキ 阿部 正昭	高浜地区町内会	ニシムラ ユウジ 西村 雄二	柏崎市小中学校PTA連合会
イイダ コウヘイ 飯田 耕平	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター	ホシノ トシヒコ 星野 俊彦	柏崎刈羽原発反対地元三団体
オカダ カズヒサ 岡田 和久	柏崎地区生コンクリート協同組合	ホシノ トシヒコ 星野 俊彦	任期：令和5(2023)年12月28日から
オダ シュウイチ 小田 修市	柏崎商工会議所	ホンマ タモツ 本間 保	プルサーマルを考える医療者の会
オノ トシオ 小野 敏夫	松浜地区町内会	ミイダ ジュン 三井田 潤	原発反対刈羽村を守る会
サヤマ キョウスケ 細山 恭輔	新潟漁業協同組合柏崎支所	ミイダ ヒロキ 三井田 達毅	柏崎エネルギーフォーラム
サンブウ ノリヤス 三宮 徳保	刈羽エネルギー懇談会	ミズシナ ヒデト 水品 栄人	刈羽村商工会
シナダ センジ 品田 善司	荒浜21フォーラム	ミトベ サトル 水戸部 智	一般社団法人柏崎青年会議所
スダ トシミ 須田 年美	かしわざき男女共同参画推進市民会議	ヤスノ ケンイチ 安野 検一	南部コミュニティ協議会
タカハシ シンイチ 高橋 新一	柏崎刈羽原発反対地元三団体		

任期：令和5(2023)年11月20日まで

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」 会則

【目的】

第1条 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（以下「会」という。）は、柏崎刈羽原子力発電所立地地域の住民の参画により、発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取り組み、並びに国及び関係自治体の活動状況等を、継続して確認・監視し、提言等を行うことにより、発電所の安全を確保することを目的とします。

【委員】

第2条 会は柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体の推薦を受けた25名以内の委員をもって構成します。

- 委員の任期は2年とします。
- 委員は再任されることが出来るものとします。
- 委員は、事故その他やむを得ない理由があるときは辞任することが出来るものとします。
- 委員に欠員がある場合は、補充出来るものとします。この場合、補充された委員の任期は他の委員の残任期間と同じにします。

【オブザーバー等】

第3条 会はオブザーバー、又は説明者として次の者（以下「事業者等」という。）を会議に出席させることが出来るものとします。

- 東京電力ホールディングス(株)
- 新潟県、柏崎市、刈羽村
- 経済産業省
- 原子力規制委員会
- その他会が必要と認められた者

2 会は、必要に応じアドバイザーを出席させることが出来るものとします。

【任務】

第4条 会は次の事項を行います。

- 原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
- 事業者等への提言
- 会での議論、活動等の住民への情報提供
- 委員の研修
- その他会の目的を達成するために必要と認められる事項

【会及び委員の権利と責務】

第5条 委員は、会において、自由に意見を陳述することが出来ます。

- 委員は、互いの意見を尊重するとともに、自らの意見等には責任を持つものとします。
- 会は、事業者等に発電所の安全確保に係る提言をすることが出来ます。
- 会は、国の責任・権限に係る事項及び法令の規定を超える事項について、これらを超えて事業者等を拘束する要求はしないものとします。
- 委員は、会を通じて、事業者等に資料開示、情報提供、現場確認等を求めることが出来ます。この場合、委員の情報共有のために、その活動内容を会に報告するものとします。
- 委員は、会の活動の中で事業者等の非開示情報を見聞した場合は、その内容を守秘するものとします。

【事業者等の協力】

第6条 事業者等は、会の目的を理解して積極的な情報開示に努めるとともに、会への説明は、委員に分かりやすいよう工夫するものとします。

- 事業者等は、会における委員の意見・提言を十分尊重するものとします。

【会の公開】

第7条 会は、全て公開で行います。ただし、委員の合意により公開しないことが出来るものとします。

【会長及び副会長】

第8条 会に会長及び副会長を置きます。

- 会長及び副会長は、委員により互選します。
- 会長は、会に関する事務を総理します。
- 副会長は、会長に事故あるとき、その職務を代理します。

【運営委員会】

第9条 会に運営委員会を置きます。

- 運営委員会は、会長、副会長及び会長が指名した若干名の運営委員で構成します。
- 運営委員会は、会長または会の諮問事項の審議、会の運営を円滑に遂行するための提言及び会が発行する情報誌の企画、編集を行うものとします。

【会議】

第10条 会議は定例会及び臨時会とします。

- 定例会は、原則として毎月1回招集します。
- 定例会のうち年1回以上は、事業者等も出席する会議（「発電所情報共有会議」という。）とします。
- 臨時会は、5分の1以上の会員の呼びかけ、又は事務局の求めに応じ、会長が必要と認められたときこれを招集します。
- 会議の議長は、会長が務めることとします。会長が出席できないとき、又は会長の指示あるときは、副会長、又は会長があらかじめ指名した者が議長にあたるものとします。

【事務局】

第11条 会の事務局は、柏崎原子力広報センターが行うものとします。

- 関係自治体は、事務局を補佐するものとします。

【附則】

この会則は平成15年3月1日から施行する。

附則
この会則は平成16年3月15日から施行する。

附則
この会則は平成17年7月6日から施行する。

附則
この会則は平成19年5月9日から施行する。

附則
この会則は平成24年9月19日から施行する。

附則
この会則は平成28年12月7日から施行する。

第2条関連事項として、委員の通算任期は10年を超えないものとする。

第10条関連として、委員の合意により定例会の開催回数を変更できるものとする。

委員推薦団体（これまでの推薦団体含む）

令和5(2023)年5月1日現在

荒浜21フォーラム、一般社団法人柏崎青年会議所、柏崎エネルギーフォーラム、柏崎刈羽原発反対地元三団体、柏崎建設業共同組合、柏崎市、柏崎市（旧西山町分）、柏崎市コミュニティ推進協議会、柏崎市小中学校PTA連合会、柏崎商工会議所、かしわざき男女共同参画推進市民会議、柏崎地区生コンクリート協同組合、柏崎農業協同組合、刈羽エネルギー懇談会、刈羽村区長連絡協議会、刈羽村商工会、協同組合ニューエネルギーリサーチ、くらしをみつめる…柏桃の輪、原発反対刈羽村を守る会、原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター、原発問題を考える刈羽西山住民の会、国際ソロプチミスト柏崎、高浜地区町内会、南部コミュニティ協議会、新潟漁業協同組合柏崎支所、プルサーマルを考える医療者の会、プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク、松浜地区町内会、連合新潟・柏崎地域協議会

五十音順



編集後記



『発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取り組み、並びに国及び関係自治体の活動状況等を、継続して確認・監視し、提言等を行うことにより、発電所の安全を確保することを目的とする』この会則の理念を基に、賛成・容認・中立・慎重・反対と様々な立場の人達が一堂に会して住民目線での意見を出し合うのが当会です。

異なる意見に対しての寛容さと、何よりこの地をより良くしたいと思う方々が多かったからこそ、20年という歴史を刻む事が出来たのだと思います。

最後に、当会副会長として活動され、残念ながら任期途中でご逝去されました高橋新一様の御冥福をお祈りいたします。論客でおられた氏に記録誌寄稿を頂きたかったとの思いを綴って、編集後記の結びといたします。

編集委員 三井田 達毅



『柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会』 創立20周年記録誌

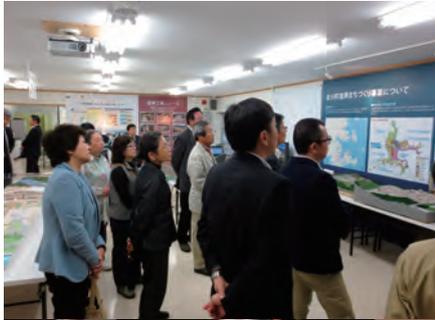
令和6(2024)年3月発行

◆発行元 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会
◆編集委員 三井田 達毅 小田 修市 竹内 英子
◆事務局 公益財団法人 柏崎原子力広報センター
〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜1-3-32
TEL 0257-22-1896 FAX 0257-32-3228
<https://www.tiikinokai.jp>
mail info@tiikinokai.jp

◆製作 株式会社 小田

※本書の内容を無断で「複写・複製・転載・データ配信」することを禁じます。

1,000



掲載している写真は、第6期から10期までの活動の様子です



20th Anniversary Since2003